



第12回

企画展

東海道五十三次くらべ

— 広重 VS. 国貞 —

「私の趣味は○○です」
あなたは、すぐに
答えられますか？

人間、趣味のひとつやふたつは持っているものですね。無趣味というのとはなんと野暮に聞こえます。さて江戸時代にもさまざまな趣味人がおりましたが、趣味が高じて本を出版した人もおられます。

その1人が木村唐船なる翁。素性については分かっていないのですが、盆景を趣味とする人物であったことは確かです。盆景とは、盆栽に石などを配置して、風景を小さな鉢の上に再現したもの。今回ご紹介する本には、唐船が作った盆景（東海道五十三次の宿場風景がテーマ）を、浮世絵師、歌川芳重（歌川国芳門人）が描き写した挿絵と、盆景を作る際の注意事項などが掲載されています。

なによりこの本が目されるのは、盆景のデザインの一部に、歌川広重の「東海道五拾三次之内」の図柄が模倣されているということです。そのうちの1図が、「蒲原 七なん坂雪けしき」。雪に埋もれた蒲原宿と、雪を踏みしめて歩みを進める3人の人物。広重の「東海道五拾三次之



木村唐船作・歌川芳重画『東海道五十三次 鉢山図会』
大本2冊 嘉永元年（1848）当館蔵

内 蒲原 夜之雪」がアイデア源であることは、疑いようもありません。約15年後の盆栽の世界にまで、広重が影響を与えていたことが分かる面白い資料です。それもこれも唐船のじさまの趣味のおかげとっていいでしょう。

※この本は9月24日まで開催中の企画展「東海道五十三次くらべ—広重 VS. 国貞—」に展示されています。

（那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 津田 卓子）

「第1回栃木の5月の美術展」

気鋭の作家に作品の発表の場を提供し、援助しようと県総合文化センターで「第1回栃木の5月の美術展」が開催されました。大金洋一さん（大山田下郷）の作品「里の秋」は、油彩画、水彩画、日本画などのジャンル約230点の中から入選しました。おめでとうございます。

ハープを弾くひと (P15) 油彩画



ミニ
ギャラリー



里の秋 (F30) 油彩画